

# 声なき祈り手の事情

エピソード1～10 日本語訳まとめ

## 収録エピソード

- エピソード1 祈りを呼ぶ祈り
- エピソード2 あなたを呼ぶ祈り
- エピソード3 沈黙を呼ぶ祈り
- エピソード4 悩みを呼ぶ祈り
- エピソード5 夢を呼ぶ祈り
- エピソード6 勘違いを呼ぶ祈り
- エピソード7 告白を呼ぶ祈り
- エピソード8 救いを呼ぶ祈り
- エピソード9 絶望を呼ぶ祈り
- エピソード10 希望を呼ぶ祈り

EPIISODE  
1

## 祈りを呼ぶ祈り

???

母なる世界樹よ。

???

あなたの温もりは、高き空より地の底にまで届きます。

???

恵みを受けし地、緑深きその大地のそばに、我らを住まわせてくださるゆえに……

???

その御心に感銘を受け、我らは誓います。

???

乾いた地に水を汲んで撒き、新たな生を歩む種を蒔き……

???

曲がりねじれた枝を払い、影に根づいた雑草を刈り取り……

???

あなたが我らを育むように、我らもまた、あなたを育みましょう。

???

どうか、あなたと我らが、この世界を美しく、幸せに。

???

互いが、互いのために。

???

永遠に。

???

……

???

今日も、お返事はないんですね。

???

初めは、数日後にまた祈りを捧げれば、お応えくださると思っていたけれど……

???

今となっては、どれほど長く沈黙を守られているのか、思い出すこともできない。

???

いや……

???

日にちを数えることに意味などあるのだろうか。

???

ここは、心の架け橋。

???

ここでの時間の流れは、思考と意志によって変わるもの。

???

外では、いったいどれほどの時が流れたのだろう。

???

あるいは……私が眠りについてから、まだ一週間しか経っていないのかもしれない。

???

私はいったい、あとどれほどここを彷徨えばよいのか？

???

何の答えもないあなたが戻ることを、あとどれほど渴望すればよいのか？

???

世界樹よ……

???

あなたに仕える私の心は、揺るぎないものだと思っていましたが……

???

初めて司祭の道を歩み始めた時は、この程度ならたやすいと思っていましたが……

???

けれど……

???

あまりにも、孤独でございます。

???

あまりにも……苦しい道でございました。

???

誰もいない教団を歩き回るほど、夢の外で過ごしてきた仲間の司祭たちとの日々が、ますます思い出され……

???

うら寂しく、静まり返った広場の通りを歩くたびに……

???

朗らかで明るく、王国を慌ただしく駆け回っていた……同胞たちの姿が、目の前にちらつくのです。

???

もしかして……これは罰なのでしょうか？

???

私たちは、どんな過ちを犯したのでしょうか？

???

あるいは、あの外の現実で誰かが、私たちの気づかぬ間に、大きな罪でも犯したのでしょうか？

???

司祭の務めに従い、その者たちの罪を分け受ける罰なのでしょうか？

???

そうであるなら、当然従うべきなのでしょうが……

???

それでも……もう、これ以上は耐えられません。

???

世界樹よ。

???

どうか、この卑しき司祭の願いをお聞き届けくださいませ。

???

もう一度……本物の世界を歩きとうございます。

???

この沈黙と静けさを望んだこともございましたが……

???

それが誤りであったことを、今こうして思い知りました。

???

友と握り合った手から感じる温もり。

???

世界に降り注ぐ暖かな陽光。

???

頬をかすめて過ぎる涼しい風……

???

この世界では、そのすべてが偽物にすぎない。

???

本物の世界が、あまりにも恋しゅうございます。

???

どうか……この切なる祈りをお聞き届けくださいませ。

???

私はこうして膝をつき……懇願いたします。

???

祈ります。

???

永遠に。

???

……教主様！

???

教主様？ 今回はどれくらいかかりそうですか？

???

う、うん？

???

何だ、この声は？

???

私が作り出した音ではない……？

???

どこかで聞いたことのある声……懐かしい者の声……

教主

まあ、今回は……どうかな？ 少し長……くかかるかも？ 最近……パンジュが霧の群れに会って、ちょっと迷……ってるんだ。

???

この声はまた違う……

???

初めて聞く声……？ いったいどこから聞こえてくる声なのだ？

教主

そんなに心配……しないで、ジョアン。あんまり……長くかかりそうなら、す……ぐまた……戻ってくるかもしれないから。

???

ジョアン……？

???

ジョアン……

???

ああ、そうだ。あなたのことを忘れていたのだな、我が姉妹よ。

???

いつも言うことをよく聞いていた、可愛い後輩司祭だった。

ジョアン

承知いたしました。

ジョアン

教主様のために祈りながら、お待ちいたします。

ジョアン

あなた様が、どうか無事に帰還できますように。

ジョアン

永遠に、いつまでも。

教主

あ……はは。大丈夫だって。そんなに心配しながら祈らなくてもいいよ。

???

これは……私が作り出したり、想像したりしている音ではない。

???

本物……なのか？

???

私の祈りを聞き届けてくださったのですか、母なる世界樹よ？

ジョアン

あなたの温もりは、高き空より地の底にまで届きます。

ジョアン

恵みを受けし地、緑深きその大地のそばに、我らを住まわせてくださるゆえに……

ジョアン

その御心に感銘を受け、我らは誓います。

???

ジョアン……

???

あなたが祈るたびに、声が澄んで聞こえる。

???

どうか、そのまま祈り続けておくれ。

???

その声を辿っていけば……

???

本物の世界に届くのだろうか？

???

あなたの声を聞いて、私が追っていくから。

EPISODE  
2

## あなたを呼ぶ祈り

ジョアン

今日も教団は平和だな。

ジョアン

教主様がパンジュ方面の探索に出られていて、少し物寂しいが……すぐにお戻りになるはずだ。もう少しの辛抱だな。

ジョアン

今回の探索は霧が深く、少々支障が出ているとのことで、長らく戻ってこれていないが……

ジョアン

はあ……こんなに時間がかかると分かっていたなら、私も同行させてほしいと頼んでみればよかったな。

ジョアン

まあ、今のネル司祭長なら、一人でも十分だとは思うが……

ネル

うう……お腹すいた。

ネル

マカロン……マカロンがもっと必要です……

ネル

何かあるたびに「聖戦モード」に勝手に変身してしまうたび、やたら体力を消耗している気がします……

キャロット

え～？ 「ブチギレモード」って呼ぶべきじゃない？

ネル

いや、それは私が書いたわけじゃありませんってば！

ネル

女王様がこっそりそう書いたからそうなっただけなので、無効です、無効！

ネル

品がなくなるからブチギレなんて言わずに、聖戦って呼んでください！

キャロット

でも聖戦モードって言うと、なんか冷めるんだもん！

キャロット

ブチギレモードのほうが可愛くない？ へへ。

キャロット

わあ！ またブチギレた！ 司祭長がまたブチギレた！ みんな逃げろ～！ えへへっ！

ネル(ブチギレ)

ち、違います～！ 私はブチギレたんじゃなくて……！ ちょっと興奮しただけです～！

ジョアン

ううむ……ああいう姿を見ると、油断はできないな。

ジョアン

姿を変える制御もうまくできず、一度そうなる则自分で疲れ果ててしまうとは、まったく……

ヨミ

でも教団にとって悪いことではないのではありませんか、高位司祭様？

ヨミ

司祭長も、女王様も……皆さんがああいうお姿でいらっしゃると、頼もしく感じます。

ジョアン

うむ、そうだな……それは確かにそうだ。

ジョアン

ヨミ、君も頼もしく感じるしな。

ヨミ

え？ 私がですか？ 頼もしい？ 私の背丈では、そういう感じはしないのですが……お世辞でしょうか？

ジョアン

違う。君も頼もしい教団の使徒だということを、前回の事件で証明したではないか。

ヨミ

そうでしたか？ へへ……そう思ってくださいなら、私も嬉しいです。

ヨミ

それにしても、一方では少し寂しい気持ちにもなりますね。

ヨミ

私が聞いたところでは、昔は……教団に司祭の方々がたくさんいたそうですが……

ヨミ

教団に入った使徒は多いのに、正式な司祭と呼べる方は三人だけなのですね。

ジョアン

うむ、まあ……今はそうだな。

ジョアン

使徒たちの中にも、あえて我々のような司祭になりたい者はいなさそうだし……

ジョアン

スノキーやピコラが地下教団の管理を担っているが、司祭と呼ぶにはどこかぎこちないからな。

ヨミ

キャロットさんも教団業務をなさっていませんし……

ヨミ

結局、教団を直接整えているのは、教主様と、ネル司祭長と、ジョアン司祭様だけなのですね？

ヨミ

時々見ると、三人ともとても大変そうに見える時があるのですが……

ジョアン

まあ、つらい時がないわけではない。だが、耐えられないほどではない。

ヨミ

あ！ あの、高位司祭様。地下で眠っている司祭の方々を、もっと目覚めさせることはできないのですか？

ジョアン

うん!? ヨミ、君がどうしてそれを……？

ヨミ

妖精王国の近くを歩いていた時、偶然、妖精たちの話を聞いたのです。

ヨミ

妖精たちの間では、よく知られている事実のようでしたよ？

ヨミ

ひそひそ話している様子からすると、何か隠しているようではありましたが……

ジョアン

うむむ……まあ、そうではあるな。

ジョアン

教団では、その事実が広く知れ渡ることを防ぎたがっていたと記憶しているのでは……

ヨミ

なぜですか？ なぜそれを広まらないようにしようとしたのですか？

ジョアン

一種の誓約だった。

ジョアン

大昔、我々が眠りにつく時に、一種の誓いを立てたのだ。

ジョアン

眠り続けながら……いつか世界が我々を忘れるように、と。

ヨミ

そんなことが可能なのですか？

ジョアン

一般の妖精住民たちは、どうせ日々の出来事に一喜一憂する性格だからな。我々が目に見えなければ、いつか忘れるだろうと思っていたのだ。

ヨミ

ふむ。たしかに、普段道を歩いていて簡単に聞けるような話ではありませんでしたね。

ヨミ

私も、ひそひそ話していた妖精たちの言葉を偶然拾っただけですし……

ジョアン

ともかく、ヨミ、君がそのような会話を耳にしたということは、あまり効果的な方法ではなかったようだな。

ヨミ

では、司祭の方々が眠りについた理由は何だったのですか？

ヨミ

一般的な妖精たちの行動を考えると……そんな悲壮な誓約をする姿が、頭の中で思い浮かばないのです。

ジョアン

それは……うむ。

ジョアン

私も眠りにつく時、いつか再び目覚めることになれば、世界のために大きな役目を果たすことになる、とだけ聞かされた。

ジョアン

教団の管理のために最低限の司祭だけを残し、遠い未来まで我々が時間を過ごすための方法が必要だったのだろう。

ジョアン

初めて私が地下で目覚めた時……まさにその時が来たのだと思ったし……

ジョアン

続いて一人、また一人と、司祭たちが目覚めていくものだと思っていたのだが……

ヨミ

あ～、だから最初に目覚めた時、あんなに大騒ぎをなされたのですね？

ジョアン

う、うん？ どうして話がまたそちらへ流れるのだ!?

ヨミ

いえ、まあ……実際そうではありませんか？

ヨミ

ジョアン司祭様の信仰が、そういう方向に働いていたということですから……

ジョアン

ううむ〜！ う、うむっ！

ヨミ

あはは……責めているわけではありません。当時の司祭様のお気持ちに共感してみようとしているだけですから。

ヨミ

でも、とにかく……司祭の方々がもっと目覚めてくださるといいですね。

ヨミ

教団がもう少し余裕のある場所になればいいなと思うのです。

ヨミ

教主様もゆっくりエリアスを見て回れるでしょうし……使徒たちとも、もっと頻繁にお話できるでしょうから。

ヨミ

もちろん、ジョアン司祭様やネル司祭長も、十分に休息の時間を持てるでしょうし。

ヨミ

司祭は常に苦行の道を歩む職業だと言いますが……

ヨミ

誰にだって、ほどよい休息の時間は必要なものですから。

ジョアン

ふむ、そうだな……そう思ってくれる心があるのなら……ありがたいことだ。

ジョアン

過去の教団か……

ジョアン

たしかに、以前の教団は司祭たちで満ちていたが……

ジョアン

今とは雰囲気あまりにも違っていたから、司祭たちが目覚めれば無条件に良いことなのかは、よく分からないな。

ジョアン

初代司祭長様が率いておられた教団は……どこか、ひどく殺風景な場所だった。

ジョアン

あの頃はそれがよく分かっていなかったが、今の教主様の主導で整えられた教団と比べると、とても冷たい雰囲気だったのだ。

???

う……うう……

???

………？

???

………。

???

……！

???

はあ……？ ふ……ふあ……

???

はは！ ははははは！

EPISODE  
3

## 沈黙を呼ぶ祈り

キャロット

わだだだーっ！ どーん！

キャロット

あいたっ！

キャロット

もー、いったい誰よ？ 妖精が走ってたら、ちゃんと見て避けなきゃダメでしょー！

ネル(ブチギレ)

それは無茶苦茶ですよ、キャロットさん！ 走っている妖精のほうがもっと気をつけ……

???

……………

キャロット

あれ？

ネル(ブチギレ)

え？

キャロット

な、何この子？ 初めて見る妖精なんだけど？ 教団にこんな妖精いたっけ？

ネル(ブチギレ)

ひゃ……ひゃあああっ！ 司祭長様～っ?!

キャロット

え、え？ 司祭長？

キャロット

なんで司祭長が、あいつのこと見て司祭長って呼んでるの？

ネル(ブチギレ)

く、口の利き方に気をつけてください、キャロットさん！

ネル(ブチギレ)

この方は、教団の初代司祭長であらせられたスキア司祭長様なんですよ！

キャロット

ス、スキア？

キャロット

私、そういうの全然知らないんだけど……

キャロット

あんたが昔の司祭長だったの？ おお～、また一人目覚めたってわけか～？

スキア

クッ、クッ……

スキア

うむ……

ネル(ブチギレ)

ひゃあああっ！ ダメです！ キャロットさん、やめてくださいっ！

ネル(ブテギレ)

シスター・ジョアンみたいに、目覚めた途端に変な誤解が山ほど生まれて、妖精王国をひっくり返そうとするかもしれないじゃないですか！

キャロット

いや、まあ……さすがにそんなこと、また起きるかな？

スキア

バキバキッ！

キャロット

ひゃああああっ！ 私のサトウキビがああ!!

ネル(ブテギレ)

ダメです！ 第二次ジョアン事変が起きます！ それだけは止めないと～！

スキア

……………

スキア

もぐ、もぐ……

スキア

ふむ。

ヨミ

それでは、私はそろそろ失礼しますね、ジョアン司祭様！

ヨミ

もうすぐ日が沈むので、月見花のお世話をする時間なんです。

ジョアン

ああ、気をつけて帰るのだぞ、ヨミ。退屈になったら、いつでも教団へ来るといい。

キャロット

高位司祭ー！ ねえ！ 高位司祭！

ジョアン

ん？ どうしたのだ、キャロット。

ジョアン

また司祭長が君を小突こうとしているのか？ だから、からかうのもほどほどにしておけと言っただろう。

キャロット

違うってば、そうじゃないの！

キャロット

緊急事態よ、緊急事態！ 地下室から、あんたみたいな妖精がもう一人目覚めたの！

キャロット

今すぐ落ち着かせないと、また王国がひっくり返っちゃうよ！

ジョアン

な、何だと!?

ジョアン

だだだだっ！

ジョアン

どこだ？ どこにいる!?

キャロット

さっきネル司祭長が、自分が止めてみせるって斧を持って、私を行かせただけど……

キャロット

あれ？ どこ行ったの？ 確かここにいたのに。

キャロット

斧で叩いて寝かせたのかな？ それで地下農場に戻ったとか？

ジョアン

そ、それはどういう意味だ、いったい！ 地下農場などと！ ふざけて適当なことを言うでない！

キャロット

いや、ありえなくはない？

キャロット

あっ！ 床にサトウキビの欠片だ！ これを辿ればいいんじゃない？

ジョアン

サトウキビの欠片を？

キャロット

だって、あの司祭、私を見るなり私のサトウキビをかじり出したんだよ！

キャロット

もぐもぐ噛みながら、私を農場送りにするみたいな目でじーっと睨んできたんだから！

ジョアン

うむ、そ、そうか？

ジョアン

ともかく、宴会場のほうが怪しいなら、そちらへ行ってみるべきだな。

ジョアン

私が先に立つ。私の後ろをしっかりついてくるのだ。

キャロット

うん！ わかったー！

ネル

ううっ……シスター・ジョアン……

ネル

何度もこうされては……くうっ……もう、やめてください……！

ジョアン

いや、この声は……！ ネル！ ネル、大丈夫か!?

ジョアン

……えっ？

スキア

もぐ、もぐ、もぐ……

ジョアン

スキア司祭長様？

ジョアン

その砂糖とパンくずまみれの、見るも無惨なお姿はいったい……！

ネル

あ〜、シスター・ジョアン！ よく来てくださいました！ お願いします、スキア司祭長様を止めてください〜！

ジョアン

な、何を止めろというのだ？

ネル

教主様が私にこっそり持たせてくれた非常用マカロンを、一つ残らず召し上がる勢いなんです！

ネル

これから一週間分のマカロンがこんなふうに消えてしまったら……私のメンタルが持ちません〜！

ジョアン

う……

ジョアン

キャ、キャロット？ 確か、深刻な状況だと言っていなかったか？

キャロット

いや、私が逃げた時は深刻そうだったんだってば〜？ これ、いったいどういうこと？

ネル

それが……おそらく、お腹が空いていらしたみたいなんです。

ネル

久しぶりに目覚められたせいなのか、お腹を押さえながら宴会場のほうへ向かおうとしていたので……

ネル

念のためにマカロンを一つ差し上げたら、それから暴走するみたいに次々と召し上がってしまって……

キャロット

なーんだ、そういうことだったの？

キャロット

ねえ！ だったら普通に言えばいいじゃん！ 人のサトウキビをかじりながら、ずっと睨んでたのは何だったのよ？

ジョアン

ずっと睨んでいるだけだったと？ ああ、それは……

スキア

……………

ジョアン

スキア司祭長様は、もともと黙言修行をなさっていた方だからかもしれないな。

ネル

黙言……修行ですか？

ジョアン

そうか、ネル司祭長もよく知らないのだったな。

ジョアン

当時は司祭同士の上下関係が厳しかったから……新入りはまともに話しかけることもできなかつただろうし……

ネル

あ～、はい。そうだった気がします。

ネル

スキア司祭長様は、ただ冷たい方だからそうなのかと思っていましたが……

ネル

そもそも、言葉を発しない修行をなさっていた方だったんですね？

キャロット

そ、そうなの？ それ、めちゃくちゃ大変そうね。

キャロット

ごめん、私そんなの知らなかった。

ジョアン

スキア司祭長様！ 私の言ったことは合っていますか？

ジョアン

あれほど長い眠りにつかれた後も……今なお黙言の誓いを守っておられるのですか？

スキア

.....

ネル

スキア司祭長様？

スキア

.....

キャロット

ねえ、ちょっとは答えてよ！ じれったいじゃん！

スキア

.....

キャロット

本当にしゃべれないの？ ずいぶん変わった誓いね。

ジョアン

やはりお答えにならないところを見ると……黙言修行を続けておられるようだ。

キャロット

文字で書いてもらうのはダメなの？ しゃべるわけじゃないし、いいんじゃない？

ジョアン

司祭の苦行を、そう簡単に考えるでないぞ、キャロット。

ジョアン

黙言の誓いとは、意思疎通そのものを断つ誓いだ。そのような抜け道で逃れられるものでは……

スキア

……………

スキア

すっ……

ジョアン

な、何か書こうとなさっていたのですか？

ジョアン

申し訳ありません、スキア司祭長様！ 私が失言いたしました！ 書きたければ、そのままお書きになっても……！

スキア

……………

スキア

もじもじ……

スキア

……

ネル

……どう見ても、シスター・ジョアのせいで諦められたみたいですけど。

ジョアン

い、いや、私はそういうつもりではなく……もともとそういう規則だから、そう言っただけで……！

ジョアン

うむ、ともかく……これは困ったな……

ジョアン

スキア司祭長様は、我々司祭の中でも先輩中の先輩……

ジョアン

沈黙を守っておられる方だから、何があったのか、その一部始終を聞くこともできないではないか。

ジョアン

このような方が突然目覚められたこと自体も妙だ……あっ？

ジョアン

ま、まさか……！

EPISODE  
4

## 悩みを呼ぶ祈り

ヤドリギ

司祭が……目覚めたって？

ジョアン

そうだ、ヤドリギ。

ジョアン

今回はいったい何を企んで、また司祭を目覚めさせたのだ？

ジョアン

なぜいつも、するなと言われたことを教主様や教団に隠れて実行するのだ！

ヤドリギ

え……えっと……わ、私は知らないよ。

ヤドリギ

私はジョアン、あなたの後は司祭たちを目覚めさせてない。

ヤドリギ

あの時、私がやらかして大騒ぎになったのを見て……司祭にはもう手を出さないほうがいいって思ったから。

ジョアン

何？ そ、それでは……本当に君とは関係のないことなのか？

ヤドリギ

あなたが私を疑うのは分かるけど……本当に違うんだってば。

ジョアン

ふうむ……

ヤドリギ

それで、状況は大丈夫なの？

ヤドリギ

ジョアン、あなたが目覚めた時みたいに、ものすごく怒っていたりするの？

ヤドリギ

ま、まさか……！ 教団はもう押し負けて、教主がまた追い出されたの?!

ジョアン

そ、それは違う。

ジョアン

教主様は方舟のほうへ向かわれ、霧の外を歩き回っておられる。

ジョアン

目覚められた先輩も……落ち着いて最近の状況をネル司祭長から教わっておられるしな。

ヤドリギ

それなら……悪いことではないんだね？

ヤドリギ

もしかすると、良いことなのかもしれない。

ヤドリギ

教団の司祭たちが、これから一人、また一人と目覚めていく合図なんじゃないかな？

ヤドリギ

それなら良いことじゃない？ もしかしたら、その子たちの中に、世界樹を元の状態に戻す方法を知っている子がいるかもしれない。

ジョアン

世界樹を復旧させる、と？

ヤドリギ

そ、そう！ 本当にそうかもしれないでしょ。

ヤドリギ

世界樹と会話したのは、私だけじゃない。

ヤドリギ

昔の司祭たちは、眠ったまま世界樹と言葉を交わしていたじゃない！

ヤドリギ

もしかしたら……世界樹が私にも話さなかった大事なことを、覚えている子がいるかもしれない。

ヤドリギ

その子と話してみようかな？ ううん、話してみたい！

ざっ、ざっ……びたり。

ヤドリギ

あ、でも……世界樹が今は死んでいるって聞いたら、少し驚くかもしれないね。

スキア

……？

ヤドリギ

どう伝えればいいかな？ うーん……つまり……

ジョアン

や、やめろ！ 君に話させておいたら大騒ぎになる！

ジョアン

話は私が直接する。絶対に近づくな！

ヤドリギ

あ……へへ、そ、そうかな？

ジョアン

下手に君が話せば、妙な誤解が生まれかねないからな……

ヤドリギ

うーん……分かった。じゃあジョアンが一度聞いてみて。

ジョアン

まったく……！ 本当に油断ならないな。

ジョアン

世界樹の力を宿している者が、こうも考えなしでは……

すっ……

スキア

……

ジョアン

これは本当に、どうすればよいか分からないな。

ジョアン

スキア司祭長様は、教団を直接率いておられた先輩中の先輩……

ジョアン

ましてネル司祭長でさえ、世界樹に関する話を聞けば大騒ぎする性格だというのに……

ジョアン

世界樹に異変が起きたなどと聞けば、理性を失われるかもしれない……

コン、コン、コン。

ジョアン

ん？ こんな夜更けに誰が……

ジョアン

あ……ネル司祭長か？ まさかマカロンを食べようと言いに来たのではないだろうな……？

がちゃっ。

ジョアン

この前のマカロンゲーム以来、教主様がほどほどに食べるようにと……

スキア

……

ジョアン

うわあっ?! スキア司祭長様？

スキア

うむ……

ジョアン

あはは……は、はは！ ま、マカロンの話をお聞きになったのですか？

ジョアン

教団でよくあることではなく、ごくたまに起きだけのことでして……

スキア

……うむ！

ジョアン

ひいっ！ この身をお罰にならないでくださいませ！ 夜食が欲しくて、何度かつまみ食いしただけなのです！

がたがたがた……

スキア

……

スキア

……はあ。

ざっ、ざっ……

ジョアン

う、うん？ 叱られないのか？

ジョアン

昔なら、地下室からバットを持ってきて、ものすごく怒られていたはずなのに……

ジョアン

うう……疲れた。

ジョアン

昨夜、スキア司祭長様がまた戻ってきて私を叱るのではないかと怖くて、一睡もできなかった。

ネル

シスター・ジョアン？ 顔色がよくありませんが……

ネル

昨夜は残業でもなさったのですか？ それとも悪夢でも見たのですか？

ジョアン

う……あ、いや……

ジョアン

少し悩みごとが多いだけだから、心配しなくてよい。

ネル

分かりました。では、今日は私がスキア司祭長様に王国をご案内することにします。

ネル

シスター・ジョアンも、あちこち変わったところを見てとても驚かれていましたし、スキア司祭長様も先に観光しておけば、早く慣れられるでしょう？

ジョアン

そ、それはそうだが……君一人で行くつもりなのか？

ネル

はい！ まあ、スキア司祭長様が妙なことをなさるとも思えませんし……

ネル

私たち教団の大先輩がこうして復帰されたのですから、王国にも改めて顔を出さないで。

ネル

パン屋通りに先に寄って、今まで見られなかった新作パンを見れば、きっととても喜ばれると思います！

ジョアン

う、うむ……そうか。分かった。

ジョアン

もし何かあれば、私を探しに来るのだぞ。

ネル

はい、分かりました！

ジョアン

ネル司祭長は……驚くほどスキア司祭長様に気安く接するのだな。

ジョアン

教団に入っただけで、他の司祭たちが皆眠りについてしまったから……かえってそのせいで、遠慮なく接することができるのかもしれない。

ジョアン

それとも、私が大げさに騒ぎすぎているのだろうか？

ざい……

ジョアン

ふむ……ここが、私が横たわっていた場所……

ジョアン

あそこが、スキア司祭長様が横たわっていた場所。

ジョアン

他の司祭たちは皆……まだ眠ったままか。

ジョアン

ヤドリギが言ったように、司祭たちが目覚め始めたわけではなさそうだ。

ジョアン

スキア司祭長様だけが、一人目覚められたのか？

ジョアン

はあ……もどかしいな。

ジョアン

いったい何が起きているのか、まるで見当もつかない。

EPISODE  
5

## 夢を呼ぶ祈り

世界樹教団の花壇

その日の夜。

セリーネ

うう～！ 何なのよこれ！

セリーネ

ボルケニカだか何だかに行けば、あったかい太陽の下で日焼けできるって言うからついて行ったのに！

セリーネ

じめじめした霧の中をうろうろしながら、ぼーっとしてただけじゃない～！

教主

あ、ごめん、セリーネ。

教主

霧のせいでパンジュの探索が少し長引いて、ボルケニカに寄る暇がなかったんだ。

セリーネ

教主アンタ！ 私をあんなに期待させておいて、ちょっと適當すぎない？

ビッグウッド

そう怒るな、幽霊。

ビッグウッド

教主も、そうしたくてそうしたわけではないだろう。少しは思いやる心を持て。

ビッグウッド

暖かい日差しは、明日浴びればよい。ビッグウッドには、幽霊がなぜ怒っているのか分からない。

セリーネ

わ、私だってそのくらい分かってるわよ？ ちょっと腹が立っただけだし！

セリーネ

ま、まあ～、んっ！ そこまで怒ることじゃなかった気もするけど～。

セリーネ

とにかく、次からはもう少しスケジュールに気をつけてよね。

教主

分かった、分かった。みんな、手伝ってくれてありがとう。セリーネには、後でボルケニカに確実にに行ける時にまた連絡するから、あまり怒らないで。

セリーネ

ま、ま、まあ、いいわよ。

セリーネ

ちえっ。あの丸太みたいなやつので、空気が変に気まづくなっちゃったじゃない。

ビッグウッド

教主もご苦労だった。それでは、ビッグウッドは森へ戻る。

ビッグウッド

ビッグウッドが留守にしている間、ビッグウッドの実を狙っていた妖精たちが、たくさん残念がっているはずだ。

ビッグウッド

みんながビッグウッドの実を好きなだけ取って食べられるように、油断したふりをして横になっていなければならない。

教主

そ、そ、そうなんだ……

教主

ああ、霧や海賊たちのせいで、探索の日程がどんどん長引いてる。

教主

この前、グレイシア付近の海域に霧がかかっているって言っていたから……

教主

霧の地帯がヤドリギの力にも影響されずに維持されているのを見ると……

教主

かつて私たちのエアリスを囲んでいた霧みたいに、グレイシアを守る霧なんだろうな。

教主

どうにも方向が掴めない。

教主

ビッグウッドなら何か、木の気配を感じ取れるんじゃないかと思ったけど、収穫はなかったし……

教主

次にもっとよく探すしかないか……はあ。

教主

それにしても……時間も遅いし、みんな寝てるかな？

教主

今回は私が長いことパンジュに乗っていたから、心配していたと思うけど……

コン、コン。

教主

ジョアン？ 寝てる？

ジョアン

すう……へへ……

ジョアン

ああ……私のジョーク集……ベストセラーになるなんて……へへ……

教主

ネル？ 寝てる？

ネル

ふああ……ぐおおお……

ネル

ぐげっ……あ、女王様……ケーキじゃなくて、マカロンのほうがいいって言ってるじゃないですか……ころろん……

教主

やっぱりみんな寝てるな。

教主

この子たちも、私がない間に教団を管理していて疲れているんだろう。

教主

私も疲れたし、このまま寝て、明日の朝に挨拶しよう。

ぎい……ぱたん！

スキア

……

教主の部屋

教主

すや、すやすや……ううん……すう……

スキア

……

ざっ、ざっ……すっ……

教主

う～……ううん……うう……

スキア

……あなたと私は、運命によって結ばれた結び目。

スキア

私はこうして心の扉を開き、互いへ届く橋を作らんとします。

スキア

顔を寄せ合い、その暖かくふわりと満ちる彼方の領域へ。

スキア

ただあなたと私だけが、二人きりで語り合えるその世界で。

スキア

互いの意識の中に、それぞれの根を下ろし……静かに、穏やかに。

スキア

同じ枝を伸ばし、新たな葉と花を咲かせられるように。

スキア

あなたが我らを育むように、我らもまた、あなたを育みましょう。

スキア

互いが、互いのために。

スキア

永遠に、いつまでも。

教主

あ……う……うん……すやあ……

教主

あああ？ あれ？ 何だ？

教主

え、ここは……？ 教団？ 夢か？ 私は確かに眠ったはずだけど……

教主

何だろう？ どこか懐かしい。どこかで見たような空間だけど……

教主

あっ？

教主

ああ、そうだ。前に初めてジョアンの心の中へ入った時……あの時と似た感じだ！

???

ううっ、ひっく……！ 教主様！ 起きてください！ 教主様あ!!

教主

え……？ きょ、教主……？ 向こうの部屋で何が起きてるんだ……？

悲しげな司祭

司祭長様！ これはどうすればよいのですか？ なぜ突然、教主様がお倒れになったのですか？

スキア

……

スキア

過ちだ。私たちが過ちを犯した。

悲しげな司祭

え？ 過ちですか？

スキア

教主の座には、人間だけが就くことができるのだ。

スキア

ただその座が空いているからと、私たちのうち一人を教主に推戴したことが問題だったようだ。

スキア

世界樹様がお怒りになったのだ……！

スキア

人間だと思っておいでになったのに、妖精だと気づき、私たちがあの方を欺いたと思われたのだ！

悲しげな司祭

本当ですか？ 本当に、そのような理由なのですか？

スキア

確かなことは……私にも分からないが……

スキア

教主様が目を閉じる前におっしゃった言葉……

スキア

人間が現れ、世界を救うというあの言葉……！

スキア

あの声と内容は、教主様のものではなかった。

スキア

世界樹様は、人間の再臨を望んでおられるのだ。

スキア

私たちは、身の程をわきまえぬことをしてしまった。

スキア

そうでなければ、教主様が推戴された初日に、世界樹へ祈りを捧げた途端、このような目に遭うなどありえないではないか！

怯えた司祭

うう……怖いです、司祭長様。

怯えた司祭

私たちは、これからどうすればよいのですか？ 世界樹様の怒りを、どうすれば避けられるのですか?!

スキア

司祭たちよ、今日の教主様の最後の言葉を記録し、この件を秘密にせよ。

スキア

それが私たちの指針となり、教団の法度を打ち立てる旗印となるだろう。

スキア

人間が来るまでは、教団の拡張はここで止める。

スキア

それは私たちの役目ではないのだ。

スキア

人間が降臨なさった時、根から枝に至るまで……その絶対なる御心が、エーリアス全土へ広がるだろう。

スキア

永遠に、いつまでも。

怯えた司祭

永遠に、いつまでも……！

教主

これは……この光景は……まさか……

教主

前にネルから話で聞いただけの、初代教主が週末農場へ行ったという、あの状況なのか？

教主

あのスキアって子は誰だ？ かなり高い地位の司祭みたいだけど……

教主

ん？ 待てよ。どうして私は、あの子の名前を知ってるんだ？

教主

どうしてこんな夢を、私が……？

シュパッ！

教主

ん？ 何だ？ 場所が変わった……？

ジョアン

あ〜ん、先輩！ でもでも……このジョアンは、まだやりたいことがたくさんあるんです！

スキア

ジョアン、その見ているこちらが恥ずかしくなる話し方をやめられないのか？

スキア

可愛すぎて我慢できない！ ああ〜、あの春の芝生の香りに満ちた頭を撫でたいものだ！

ジョアン

も、申し訳ありません……

ジョアン

普段なら通じる方法なのに、今日は司祭長様がずいぶん真剣ですね。

スキア

あと一か月だ、ジョアン。

スキア

一か月後には、教団を管理する最低限の司祭だけを残し、私たちは眠りにつく。

ジョアン

どうせ眠りにつくのに、明日から黙言の誓いまで立てる必要があるのですか？

ジョアン

スキア司祭長様が何もお話しできなくなったら、わたくしは退屈でどうすればいいのですか？

スキア

それは眠りにつくこととは別の話だ。

スキア

私たち高位司祭は、あまりにも多くのことを知ってしまった。

スキア

世界樹の御心を研究するうちに、触れてはならないものにまで手を伸ばしてしまったのだ。

ジョアン

それは何なのですか？ わたくしにも教えていただけませんか？

スキア

ジョアン、お前にまで黙言の誓いを背負わせるわけにはいかない。

スキア

その道は陰しく、孤独で、苦痛に満ちた道となるだろう。

スキア

私たちは、世界のために秘密を守ろうとしているのだ。

スキア

知らないほうがよい。

スキア

いつか再び眠りから覚める時……その時は、私たちが動かねばならないとおっしゃったのだから……

スキア

私たちはあの方の意志に従って眠りにつき、その時に力となる準備をしなければならない。

スキア

分かったな、ジョアン？

ジョアン

ひいん……分かりましたあ……

ジョアン

では、以前ご命じになったとおり、新しい司祭長となる器を引き続き探してみます。

スキア

ああ、そうするのだ。

教主

この過去は……何なんだ？ 過去の夢を見ているのか？ 私が経験したこともない出来事を……？

パアッ！

教主

うわっ！

スキア

……

教主

ス、スキア？

—次回—

EPISODE  
6

## 勘違いを呼ぶ祈り

スキア

……

教主

スキア？ 君がスキア……なんだね？ き、君は誰？

スキア

あなた……

スキア

あなたは「真の資格」を持つお方なのですね。

教主

え？

スキア

ここは「心の架け橋」。

スキア

世界樹様が、私たち司祭と対話なさる時に使われていた空間。

スキア

ここへ入り、私の記憶を覗くことができるということは、あなたが世界樹の力を授かった存在であるという意味です。

スキア

人間が教主になったと聞き、まさかと思いましたが……本当のようですね。

教主

な、何だろう？

教主

教団の仕事が多すぎて、私が「司祭がもっといたらいいのに」って思ったせいで作り出した夢なのかな？

教主

つねっても意味がないな？ 夢から覚めないし？

教主

それなら……

[選択肢

スキアのほっぺを引っ張ってみる。]

つねっ、びよーん。

スキア

ふぁえ？ いま何をひているのれすか！

教主

やっぱり効果なしか？ げんこつでも入れるべきかな？

スキア

ま、待ってください！ これはただの夢ではありません！

教主

う、うん？

スキア

私はスキア。世界樹教団の初代司祭長……

スキア

あなたが教団を空けている間に、長き眠りから目覚めた司祭です！

スキア

ネルとジョアンからあなたの話を聞き、あなたがどのような存在なのか確かめようとしたのです。

教主

……

教主

君、ネルやジョアンがやったことをそのまま真似してるじゃないか。

スキア

い、いえ、そういうことではなく……！

スキア

どうか……少しかだけ信じて、ご理解ください。

スキア

私は現世で黙言の誓いを立てた司祭……

スキア

このような方法を使わなければ、あなたと会話することができないのです。

教主

黙言の誓い……？ これはまた新しいパターンだな？

教主

うーん……まあ……こういう夢を見るのも悪くないか。

教主

面白そうだし、ひとまず話を合わせて遊んでみようかな？

教主

うーん、よし。スキア。

スキア

ありがとうございます。ようやく話が通じましたね。

スキア

あなたの夢の中へ入るのは、少し早まった行動だったとは分かっていましたが、仕方ありませんでした。

スキア

今の時代には、私の知らないことがあまりにも多いうえに、人間の教主が現れたという話が簡単には信じられなかったのです。

教主

はは、よくある流れだね！

教主

私が人間だという事実だけでは足りなかったのかな？ 君の信仰は弱いな、スキア！

スキア

え、ええっ？ いえ、私はただ……ううう……！

スキア

申し訳ありません、教主様！ あなた様を見誤り、無礼を働きました！

スキア

どうか私をお許してください……！

教主

君の罪を〜、許そう。ふふ！

[選択肢

スキアの頭をなでる。]

なで、なで。

スキア

ふわあっ?!

教主

な、何？ どうしてそんなに驚くの？

スキア

このくすぐったく、温かな頭頂部の感覚……うう……気持ちいい……

教主

ええ……この子……ちょっと大きすぎない？

教主

私は……使徒たちの頭をなでた時、こういう反応をしてほしかったのか？

教主

私って、いったい何を望んでるやつなんだろう？

スキア

う、うむっ！ とにかく……教主様。

スキア

私は、人間という存在が正確には何なのか知りませんでした。

スキア

それは、ただ世界樹様だけが知る領域。

スキア

禁断の知識……私たちのような、ただの妖精が知ってはならない秘密。

スキア

今、あなたが真の先知者であると分かったからには……

スキア

この申しき司祭が、あなたのしもべとなることを誓います。

教主

う、うん。そ、そう！

スキア

教主様。

スキア

しばし私と共に、心の中を歩いていただけませんか？

教主

え？

スキア

教主様に、必ずお伝えしなければならないことがあります。

教主

私が……知らなきゃいけないこと？

スキア

私たち世界樹教団は、多くのものを秘密の中へ埋めてしまいましたから……

スキア

たとえジョアンやネルがいたとしても、教主様は多くの疑問を抱えておられたことでしょう。

スキア

誰も答えることのできなかつた真実を、私がお説明いたします。

教主

え？ 本当に？

スキア

はい、その通りです。教団の主となられた方なら、当然知るべきこと……

スキア

そして私が夢から覚め、こうして教主様にお会いしようとした理由。

スキア

そのすべてをご説明いたします。

教主

ええ……まあ、私としては悪い話じゃないけど。

教主

私が気になってもどかしく思っていたことが、こうして夢として表れているのかな？ ちょっと急だな……

教主

教団の過去や秘密については、いくら調べても答えがなくて諦めていたけど、そのもどかしさがこうして夢に出てきたってことか？

スキア

………… うむ…………何だろう？ それほど驚いておられる感じではありませんね……

スキア

きよ、教主様？ まさか、まだ私のことを夢だと思っておられるわけではありませんよね？

教主

え？ あ、違うよ？ 違う！ 今これは本当に起きていることだって、そのくらいは分かってる。

教主

夢から覚めないようにするには、できるだけ難しく話を合わせないとね？

教主

それで、何を見せたいの？ 早く見せて！ へへ。

スキア

あ…………分かり…………ました。うむ。

スキア

私について来てください。共に歩きながら、お話しいたします。

EPISODE  
7

## 告白を呼ぶ祈り

スキア

まずは……一つ確認させてください。教主様は、教団についてどこまでご存じでしょうか？

教主

どうだろう？ 正直、知っていることは多くないよ。

教主

ネルもそうだし、ジョアンも教団の過去についてはあまり知らなかったんだ。

教主

特に、スキア、君みたいに地下室で眠っている司祭たちについては、かなり気になっていたんだけど……

教主

ジョアンも最初は、なぜ司祭たちが眠ることになったのか正確には知らなかったみたいで。

教主

最近、あのニフェルのやつが「自分のせいで眠った」って言うてはいたけど、私もそれをどこまで信じていいのかわからないし……

教主

それ……教えてくれる？

教主

君なら知っているんだよね？

スキア

はい、知っています。私たち司祭は命を受けました。

スキア

世界の秘密が、これ以上漏れ出さないようにするためです。

スキア

普通に沈黙を守る程度では、その秘密を保つことはできなかったでしょう。

スキア

噂や雑談を通して少しずつ広まり、やがては手のつけようもなく真実が広がっていたはずですから。

スキア

妖精たちの性格は、よくご存じでしょう？

スキア

私たち司祭は、落ち着き、冷静な姿勢を美徳としていますが……

スキア

結局、根本は妖精ですので、軽い性格そのものを抑え込むには限界があったのです。

教主

おお、すごいぞ、私の無意識！ それっばい妖精司祭の話し方！ ジョアンと過ごしているうちに学習したのかな？

教主

こんなことにも答えられるのか、試してみよう。

教主

じゃあ、その秘密って何？

スキア

……

スキア

分かりました。お話しいたしましょう。

スキア

教団の主となられた方であれば、それを知る資格があります。

スキア

世界樹……

スキア

エーリアス……

スキア

それらが、唯一の存在ではないということ。

教主

え……？

スキア

いえ、あるいは……世界樹は唯一の存在である、というのは正しいのかもしれませんが……

スキア

それに比肩する存在が、いくつもある……と言うべきでしょう。

教主

どういう意味？

スキア

私たちが見ている世界樹……つまり、妖精王国の中心に立つあの木以外にも、各地に似たものが存在するのです。

スキア

おそらく、その近くにはエアリアスのような世界が、別にあるのだと推測しています。

スキア

正確にいくつの存在があるのかまでは分かりませんが……私たちが突き止めた事実は、そういうものでした。

教主

それ……もう、だいたいは知ってたよ。

教主

うん、まあこのくらいなら悪くないな。私がすでに知っている事実をもとに、適当に変化をつけたってところかな？

スキア

はい？

教主

グレイシア。

教主

グウィンの故郷に、世界樹みたいなものがあるって聞いたんだ。

スキア

グウィン？ ああ、あのペンギンの使徒のことですか？

教主

そう。君もグウィンについては知ってるんだね？

スキア

は、はい。ジョアンとネルから、今の時代について一通り教わっていましたので。

教主

うん、うん。そういうことだよね。ふふ。

教主

それでスキア。そういうものが他にもあるって、どうやって突き止めたの？ 世界樹が直接教えてくれたの？

教主

君は古代の司祭でしょ。グウィンみたいな子もいなかったはずなのに、どうして分かったの？

スキア

教主様は、教団の司祭たちが眠りを通して祈りを捧げることをご存じでしょう？

教主

そうだね。

スキア

その祈りの過程で、司祭たちが奇妙な声を聞き始めたのが、すべての始まりでした。

スキア

司祭たちと意思を通わせているのが世界樹だけではないと、その時初めて悟り、研究を始めたのです。

スキア

眠りを通して夢を見ながら……夢同士が触れ合う「共鳴領域」があることを発見しました。

スキア

まるで聞き取りにくい雑音のように……世界樹の声に似たものたちが反響する、交差した空間を見つけてしまったのです。

教主

無線機の周波数が重なる、みたいな感じなのかな？

教主

反響？ その空間はどこにあるの？ 幽霊沼の垂空間みたいな場所？

スキア

霧の向こうの荒野です。

スキア

あの空っぽで果てしない土の高原に、いくつもの存在の声反響し、鳴り響いています。

スキア

それを突き止めた瞬間、私たちは世界樹の怒りを買いました。

スキア

眠りにつくよう命じられました。

スキア

その事実が広まってはならない、と。

スキア

この世界が完全に保たれるためには……誰もそれを知ってはならない、と。

スキア

沈黙の果てに訪れた荒野の冷たい声が……私たちの頭の中を貫きました。

スキア

だから眠りについたのです。

スキア

いつか、その事実が些細なものとして片づけられる日。

スキア

すべてが明らかになる審判の日に……再び目覚める資格を得るだろう、と告げられて。

教主

グレイシア以外にも、世界樹に似たものがある、か……

教主

それなら、グレイシアだけでなく他の場所でも種を手に入れられるってことじゃないか。

教主

これは……私たちの世界で朽ちていく世界樹を……救う方法がいくらでも増えた、という妄想なのか……？

教主

パンジュ探索がうまく進んでいないから、私も少しもどかしかったみたいだね。

スキア

教主様。

スキア

ある程度、疑問は解けましたか？

教主

うん。君たちが眠った理由は、もう理解したよ。

教主

もちろん……まだはっきりしない部分はあるけど、君たちも正確に全部を知っているわけではないんだよね？

スキア

その通りです。私たちは結局、世界樹のしもべ。

スキア

あの方の御心に従って動き、行動するだけ。

スキア

たとえ好奇心に勝てず、越えてはならない線を越えかけたとしても、その後は恐れによって、それ以上進むことはできませんでした。

教主

うん、そうだろうね。そんな気はしてたよ～、はは！

スキア

……………？

スキア

う、うん？ これほど深刻なことを、あまりにも軽く受け止めておられるのではありませんか？

スキア

教主様があまりに余裕そうに見えるので、少し戸惑うというか……

教主

え？ ああ～、大丈夫、大丈夫！ 私はただ、ポジティブ思考が強いだけだから。はは。

スキア

うむ……分かりました。

スキア

それでは、教主様。

スキア

今度は、私の質問にお答えいただく番です。

教主

え？ 私が？ 君に??

スキア

私は眠っている間、理解できない現象をいくつも経験しました。

スキア

もしかすると、教主様なら答えをくださるのではないかと思いますのですが……

スキア

ご存じないのであれば、仕方ありません。

教主

まあ……私が知っていることなら、知っている範囲で話すよ。

スキア

……

スキア

世界樹は……死んだのですか？

教主

うん。逝ったよ。

スキア

ほ、本当ですか?! まさか……まさかとは思っていましたが……！

スキア

いえ、しかし、どうしてそのように落ち着いて、軽く即答なさるのですか……！

教主

君……もう知っていたからそう聞いたんじゃないの？ 君こそ驚きすぎじゃない？

スキア

いえ、ですから……あ、う……ああ……うむ。

スキア

やはり、そうだったんですね。

スキア

そうです。知っていました。すでに、うすうす気づいていたのです。

スキア

祈りの中で……声が途切れしました。

スキア

私と共に眠っていた司祭たちは皆……主なき祈りの中に閉じ込められています。

スキア

あの方の意志に従って眠り、備えていた過程が……崩れてしまったため……

スキア

計画に狂いが生じたことに気づいても、そこから抜け出すことができない状態になってしまったのです。

教主

スキア、君は今出てきているじゃないか。

スキア

簡単なことではありませんでした。偶然触れ合った祈りを聞き、意志を固めて出てきましたが……

スキア

純粋な偶然でした。それまではずっと、出口を探して彷徨っていたのですから。

スキア

教主様。

スキア

祈りの中で道を失った司祭たちを、救っていただけますか？

教主

わ、私が??

教主

何だこれ？ 急に空気が重くなりすぎじゃないか！

教主

夢を長く見ていると、より深淵へ入っていくとか、そういうことなのかな？

教主

どうやって私にそれをしろっていうの？

スキア

方法は私にも分かりませんが……教主様は選ばれし先知者にして救い主……世界樹様が定められた教主様であれば、可能だと希望を託しているのです。

スキア

教主様、どうか……道を失った私たち司祭を、お救いください……！

EPISODE  
8

## 救いを呼ぶ祈り

教主

うーん……いろいろと複雑な話だね。

スキア

やはり難しいことでしょうか？

教主

何というか……方法は分かるような、分からないような。

スキア

それはどういう意味でしょうか、教主様？

教主

最近、不思議な力を身につけたんだ。

教主

今、君と一緒にいるこの空間？ 君はここを「心の架け橋」って言ってたよね？

スキア

はい、その通りです。

教主

私はここに来るの、初めてじゃないんだ。

教主

心の中へ入る方法を、何度か使ったことがある。

スキア

本当ですか？ やはり世界樹の力を授かった、教団の主にふさわしいお方ですね！

スキア

心を用いた意思疎通は、ずっと世界樹様が使われていた方法ですから、教主様なら当然可能だと思っておりました！

教主

スキアのやつ、まるでジョアンが私を褒めてるみたいに言うな。かわいい。

教主

ああ、もちろん可能だよ！

教主

それで、司祭たちを救いに行けばいいってことだよね？

スキア

はい！ そうしていただけるなら、これ以上望むことはございません！

スキア

この果てしない眠りの中で道を失った司祭たちを、お救いくださいませ！

教主

心の中の道を探す、か……

教主

ティグやウロスに、私の心の一部を共有して、分け与える方法を使ったよね？

教主

ネルも似たような方法だったし……私にとってまったく馴染みのないことではない。

教主

どうせ夢の中なんだから、試して損はないよね？

スキア

それは……私にもよく分かりませぬ。

スキア

最初に世界樹様の声が途切れた後、私も夢から抜け出すまでに膨大な時間がかかりました。

スキア

何の目印もない夢の中の道では……目的地が分かりませんから。

スキア

危険なことです、教主様。

スキア

司祭を救いに飛び込んだ結果、私のように長い時間、夢に閉じ込められて過ごすことになるかもしれません。

教主

あ、それはちょっとダークすぎる設定じゃない？ まるでシオンが書く小説みたいだね。

スキア

は、はい？

教主

あまり真剣に空気を変えすぎないようにしよう。

教主

じゃあ、どこへ行ってみようか？ 司祭たちが眠っている場所、教団の地下に行けばいいのかな？

教主

そっちのほうが、何となく「イメージ的に」辿り着きやすそうだし……

スキア

ええ……本当に、このまますぐ試されるのですか？

スキア

せめて現実に戻って、ジョアンやネルと相談を……

教主

くっくっく。

スキア

え、え？ なぜ急にお笑いに……？

教主

そろそろネタが浮かばなくなって、底が見え始めてるんだらう、夢くん。

教主

それじゃ、始めてみようか。教団の英雄になるエンディングで、気持ちよく締めようじゃないか。

ざっ、ざっ。

スキア

ええ？ 教主様？ そのあまりにも堂々とした足取り……一片の迷いもない行動……！

スキア

これほどまでに迷いなきお方だったとは……！ 確かジョアンやネルと話した時に聞いた限りでは、「優しいけれど、おろおろして優柔不断なお方」だと思っておりましてのに……！

教主

それ、褒めてるんだよね……？

教主

この子……何気にシニカルなネルとかアメリカみたいなことを言うな。

スキア

あ、そうです！ ネル司祭長から教わった表現があります。エルフがどうのこうのと言っていた……ああ！

スキア

あまりにも……テトっぽくあらせられます、教主様!!

教主

ネルはそんな表現、いったいどこで聞いたの?!

教主

ええと……司祭たちが眠っている場所って、ここだったよね？

教主

ここがジョアンの眠っていた場所で……

教主

あそこ……

教主

空きが一つできてるね？

スキア(建前)

……

スキア(本音)

そこは、もともと私が眠っていた場所です。

教主

それじゃあ……この子から始めてみようか？

スキア(建前)

……！

スキア(本音)

あのよう、ただ誰でもよいから選んでなさるのですか？

教主

ふう……司祭たちが道に迷って彷徨っているっていうなら、教主としてこれ以上遅れるわけにはいかないよね。

教主

それに教団はみんなに平等な場所……適当に選んだんじゃなくて、誰であっても順番に関係なく救われる資格があるってことだよ！

スキア(建前)

……！

スキア(本音)

あっ、ああ……！ その栄光あるお姿が、あまりにも眩しゅうございます、教主様！

教主

ふふ、今の台詞は我ながらちょっと格好よかった。

教主

ええと……額か手を合わせたまま……

教主

こうして集中して……相手と共鳴するように……

教主

待って……これ、どうなるんだ？ 夢の中の夢に入るのかな？

教主

これ本当に大丈夫なのか？ ええと……まあ結局は私の夢だから大丈夫なのかな？

教主(建前)

よく分からな……

パアアッ！

教主

うう……眩しい。

教主

ここはいったい、またどこなんだ？

スキア

ビオラの夢の中へ入ったのです。

教主

ビオラ？

教主

警備隊のキャスター、ネッツ、タンバリンに続くビオラってことか？ 私の創造力はあまり高くないみたいだな。

教主

それはそうと、ここはどうしてこんなに陰気なんだ？

教主

スキア！ 君があまりにも真剣でダークなことを考えるから、こうなったんじゃないの？

スキア

は、はい？ 私がいくらそのようなことを考えても、他の司祭の夢の姿を変えるなど……

教主

ほら、見て。

教主

私が想像していたのは、こういう感じだよ！

シャアアアアー！

教主

そう！ これだよ！ 君たち妖精には、このくらいがちょうど似合うって！

スキア

ピオラの夢の中の世界を……教主様がお望みの姿へ変えられたのですか……？

教主

当然でしょ。何をそんなに驚いてるの？

教主

君たちの夢は、私の夢も同然だから！

教主

君たちの大切な夢、私が守ってあげるよ！

スキア

きよ、教主様……！身に余るお言葉です！お会いして言葉を交わしたこともない司祭たちを、そのように思ってくださいましたとは!!

スキア

では、急ぎビオラを探しに参りましょう。

スキア

きっとこのどこかで、道を失い彷徨っているはずです。

教主

その必要はないよ。

スキア

はい？

教主

言ったでしょ。君たちの夢は、私の夢も同然だって。

教主

ビオラ、今すぐ私の前に出てきて。君をこの果てしない眠りから救ってあげる！

スキア

そ、そのようなことも可能なのですか？

すっ……

ビオラ

ス、スキア司祭長様……？

ビオラ

急にこの辺りが明るくなったので来てみたのですが……なぜ司祭長様が……！

スキア

ビオラ！ いったいどれほど久しぶりなのだ？ さあ、こちらへおいで。

たたたっ、ぎゅっ！

ビオラ

ううっ、司祭長様……あまりにも長い間、ひとりぼっちでした……！

ビオラ

時間が経つほど、周りが醜く変わっていったんです！

ビオラ

私が荒んでいくほど、この祈りの中の世界も荒んでいったんです。

ビオラ

すべてが偽物でした。

ビオラ

優しく挨拶してくれる住民たち、楽しい教団での暮らし……

ビオラ

一つ、また一つ、夢の中で作られた偽物だと分かっていくたび、あっという間に私だけが残されて……それで……！ うわああん！

スキア

大丈夫だ、幼き木の葉よ。

スキア

今は、私たちを救うために教主様が来てくださったのだから。

ビオラ

教主様？ 教団に教主様がいらっしゃるのですか？

教主

そうだよ！ それがこの私だ!!

ビオラ

あなたが……教主様？ 人間……？

教主

もう安心して。君たちの悪夢を終わらせるために、私が来たんだから。

ビオラ

あ、ありがとうございます！ うううっ……！

EPISODE  
9

## 絶望を呼ぶ祈り

教主

ピオラという司祭を助けたところまではいいけど……

教主

ここからどうやって出るんだ？

教主

夢の中の夢から出る方法、か……

教主

いや、そう考えるんじゃなくて……共鳴活動って普通どうやって止めてたっけ？

教主

ジョアンの時は……

教主

私が自分であの子たちの心から出たんじゃないくて、最後に強制的に弾き出された気がする。

教主

……ティグの時やウロス……の時も、そうだった気がするし……

教主

ネルの時は、そもそも夢の中へ入っていない状態で……

教主

今考えてみると……私、自分でその繋がりを切ったことが一度もないじゃないか？

教主

しかも私だけじゃなくて、ピオラやスキアもどう連れて出ればいいのか、よく分からないな？

教主

……

教主

はは！ これが私の夢じゃなかったら、本当に大変な状況じゃないか？

スキア

教主様。

教主

う、うん？

スキア

これから、どうやってここを出ればよいのでしょうか？

教主

ええっと……そ、それね。それはつまり……ええっと……

スキア

さあ、その見事で迷いのないお力で、私たち司祭を夢の奈落からお救いください！

教主

え、うーん……

教主

いやあああっ!!!

スキア

………？

ビオラ

えっ？

教主

………

教主

つ、つまり……感覚が……そう！ 君と私を断ち切る感覚！ まあ、そういうやつだよ！

教主

あるいは、あの空の上へシュンッ！ って飛び上がって！ 空を突き抜けてみれば夢から出られるとか！

スキア

そ、そんなこともおできになるのですか？

教主

当然でしょ！ 夢なんだから！

教主

じゃあ飛んでみようか？ みんな、私の手を掴んで！

スキア

は、はい！

教主

いやあああっ!!!

びよんっ、たっ。

スキア

………？

ビオラ

………？？？

教主

あ〜、久しぶりだからか、うまくいかないみたい。ちょ、ちょっとだけ時間をくれる？

スキア

わ、分かりました。

教主

う〜ん。なんとなく感覚で処理してみようと思ったけど、やっぱりダメなのかな？

教主

少し困ったな。簡単に進められると思ったんだけど……

ビオラ

あの、司祭長様。

スキア

どうしたのだ、ビオラ。

ビオラ

この方……本当に教主様で合っているんですか？

スキア

そうだ。私が教主様の夢の中へ入り、助けを求めたのだ。

教主

うん、そうだったね。

スキア

その後、目覚めて教団の地下へ来て、君の夢の中へ入ったのだよ、ピオラ。

教主

うん、うん。そうだっ……

教主

ん？ 待って。

教主

夢から覚めたって？

スキア

はい。教主様の部屋から出た時、夢から覚めて、一緒に地下まで歩いて来られたではありませんか。

教主

……

教主

お？

……

教主

え？

ざっ、ざっ。

スキア

ん？ 教主様？ なぜ急に私に近づいて……

つねっ、びよーん。

スキア

ふわああっ！

教主

はは、スキア！ そんな冗談を言っちゃダメだよ！

教主

いくら私の夢の中だからって、私の肝を冷やすようなことを軽々しく言ってはいけないからね？

スキア

そ、それはどういう……！ 教主様？ まさか、まだご自身の夢だと思っておられるのではありませんよね?!

教主

ここが今、私の夢の中じゃないって？

スキア

そ、その通りです。

教主

それなら、スキア。どこからが現実で、どこまでが夢なのか、証拠を出せる？

スキア

ええっと……それは……

教主

ほらね。やっぱり君も答えられないんだろう？

スキア

私の「言葉」です。

教主

え？

スキア

私は……黙言の誓いを立てた司祭。

スキア

現実では、言葉を発することができません。

スキア

夢の中では、私の心がそのまま私の声となります。

スキア

思いをありのままに表す空間ですから、黙言の誓いは効力を持たないのです。

教主

え？

教主

そういえば～、私の部屋から教団の地下へ来る間は、スキアは心の声でしか話していなかったよね？

スキア

ご理解いただけましたか、教主様？

教主

……夢だ。

スキア

はい？

教主

ゆ、夢でなきゃダメなんだ！ 夢じゃなかったら、私は終わりなんだよ!!!

教主

そうだ！ 夢なんだ！ 私はまだ夢を見ている！

スキア

きょ、教主様！ 落ち着いてくださいませ！

教主

架空の存在だって～？ 何が～？

ビオラ

偽物……なの？ こんなやつが、あの偉大なる予言の教主であるはずがない！

ビオラ

スキア司祭長様も……人間の教主も……また偽物だったんだ！

スキア

ビオラ？

ビオラ

また騙された。それらしく作られた夢を見て、また騙されたんだ。

スキア

ビオラ！ 違う！ 私たちは本物だ！

ビオラ

この果てしない夢の中を、ずっと、ずっと彷徨わなきゃいけないんだ……ふふ。

ビオラ

ふはは……ふはははははは!!

教主

周囲が……また暗く変わっていく……？

スキア

教主様！ ビオラを落ち着かせてください。最初にしてくださった時のように！

教主

いや、あの時は……本当に私の夢だと思ってやったんだけど……

スキア

私があまりにも早まって動いてしまったのか？

スキア

教主様は全能だと思い込んで……あまりに性急にすべてを進めてしまった。

スキア

このまま放っておけば、危険すぎる……！

スキア

私や教主様がビオラの夢の中に閉じ込められたら大変だ……！ 何としてでも……教主様が再び力を取り戻せるよう説得を……！

スキア

教主様！ 教主様のお考えは間違っておりません！

スキア

世界の主より授かった力を、教主様が受け継がれたのです！

スキア

教主様こそが夢の主……！ 本当にそのようなことを行えるからこそ、行えたのです！

スキア

迷いなく、堂々と！ ご自身の権利を受け入れ、その力をお使いください！

教主

私の権利……？ 迷いなき私の力……？

教主

くうっ……いやあああっ!!!

びよんっ、たっ。

スキア

………

教主

ごめん。もう現実を理解しちゃったせいか、思い通りにはいかないみたい……

ごごごっ！

教主

うわっ！ 何だ？ 地震？

スキア

夢が……崩れる……

スキア

ビオラ！ しっかりしなさい！ 思い込みの中へ吞まれてはならない！

ビオラ

うう……うううっ……！ うるさい！ 黙れ、黙れ、黙れ！

ビオラ

全部嘘だ！ やめて！ いっそ何も言わずに、静かにしてよ！

スキア

ビオラ！ 君が初めて司祭になった日のことを覚えているか！

スキア

明るく笑いながら、世界樹様から授けられた一言に胸を躍らせていた、あの時を思い出すのだ！

ビオラ

ううっ……！

スキア

君は言っていた。世界樹様が、君は誰よりも明るく笑う妖精になるだろうと。

スキア

だから教団を眩しく輝かせて、妖精たちを幸せにするのだと！

ビオラ

う……それをどうして……？

ビオラ

最初の誓約は、司祭長様にしかお話ししていなかったのに……？

ごごごご……

教主

周囲が落ち着いてきている……

教主

スキア！ ビオラに話しかけ続けて！ 状況がよくなってる！

スキア

は、はい！ 教主様！

ビオラ

スキア司祭長様……？ 本当にあなたなのですか？

スキア

そうだ、道を失った木の葉よ。私は本物のスキアだ。君の夢が作り出した偽物ではない！

ビオラ

司祭長様……

スキア

ああ、大丈夫だ。すぐにこの悪夢から抜け出せ……

ビオラ

なぜ世界樹様は、私たちとの繋がりを絶たれたのですか？

スキア

な、何を……？

ビオラ

全部、無意味だ。エーリアスも。教団も。世界樹様が望んだ、私の笑顔も……

ビオラ

ただ全部捨てて、行ってしまわれた。

ごごごっ！

スキア

ビ、ビオラ！ 落ち着くのだ！ いけない！ 怒ってはならない！ どうか！

ビオラ

はあ……怒る力もない。私はただ、この意味のない空間を漂うだけ。

ビオラ

空っぽになった約束と共に。永遠に、いつまでも……

スキア

ビオラ——!!

教主

ううっ……どうしよう？ このビオラという子の精神は、不安定すぎる。

教主

ここでビオラの夢が崩れたら……スキアや私はどうなるんだ？

スキア

最初に世界樹様の声が途切れた後、私も夢から抜け出すまでに膨大な時間がかかりました。

スキア

何の目印もないあの夢の道は……目的地が分からないのです。

スキア

危険なことです、教主様。

スキア

司祭を救おうと飛び込んだ結果、私のように長い時間、夢に閉じ込められて過ごすことになるかもしれませんから。

教主

う……ダメだ！ それはダメ！ そんなふうは何十年も寝てから目覚めたら、ネルにもものすごく怒られるって!!

教主

今！ すぐに夢から！ 覚めろってば!!!

教主

しっかりして、ビオラ!!

ぐしゃっ！

ビオラ

きゃあああっ！

—次回—

EPISODE  
10

## 希望を呼ぶ祈り

教主

う……うああ……

教主

う？ 何だ？ ここは……教団の地下？

教主

ううっ……抜け出せたのか？ 夢から？

教主

スキア？ ビオラ！

ゆさ、ゆさ。

教主

ねえ！ 起きて！ 君たちも一緒に目覚めたんじゃないの？

教主

スキア！ ビオラ!!

スキア

う……うう……

スキア

教主様……？

教主

よかった！ 起きたんだね？

教主

ピオラは？

ピオラ

……………。

教主

寝てるのか？ まだ？

スキア

……………。

スキア

予言にある教主様のお力をもってしても、成功には至らなかったのか……惜しいことです。

教主

あ、いや……その……スキア、ごめん。全部、私の夢だと思って、それに酔いすぎていたみたいだ。

スキア

……………。

スキア

このようなことで謝られるとは……謙虚なお方なのですね。ご自身のせいではないというのに、ここまでおっしゃってくださるとは……

教主

はああ……私をもっと真剣に動いていれば、こんなことにはならなかったのに。気分がよくないな。

がたっ。

スキア

………？

スキア

ん？ 教主様、何をなさろうと――

教主

スキア。私は成り行きで、世界樹教団の教主になった。まあ……ネルやジョアンから説明は聞いているよね？

教主

だからかもしれないけど……自分の能力がどういものかもよく分からないまま、ぎこちなく扱っているだけなんだ。まだ未熟だよ。正直、私にとって慣れた力じゃないから。

教主

慣れるのも簡単じゃないしね。正直、これを練習するのも簡単じゃなかった。危険なことかもしれないから、むやみに誰かで試すこともできないし。

教主

でも……私が……私が約束する。いつか私が慣れて、この力を完全に扱えるようになったら……司祭たちを全員目覚めさせるよ。だから、あまり胸を痛めないで。

スキア

善きお方なのですね。やはり、我が後輩であるジョアンとネルが話していた通りです。

ぎゅっ。

スキア

教団の主よ、あまりお悩みになりませぬよう。

スキア

容易なことではないと思っておりました。その程度の試行錯誤は当然だとも思っておりましたから……

スキア

あなたと私が夢見る方向が同じであるなら、いつまでも……この司祭はお待ちいたします。

スキア

ただ……少しだけ……少しだけでも、こうして私と一緒にいていただけますか？

スキア

眠っている同僚の司祭たちを見ていると、悲しくなってしまうのです。

スキア

少し……心を整理する時間が必要なようです。

スキア

私としばらく……こうして寄り添ったままでいてくださいませ。

教主

……。

ぼん、ぼん。

スキア

ありがとうございます。教団の主よ。

翌朝。

教主はスキアと共に、ジョアンとネルへ昨夜起きた出来事を共有した。夢を通してスキアと会話したこと、司祭の夢へ入ったこと。

そして、司祭を目覚めさせることに失敗したこと。

ジョアンとネルは残念ながらながらも、スキアと教主の姿を見て、二人を慰めるしかなかった。

ネル

そうですか、分かりました。

ネル

よく頑張りましたね、教主様。

教主

よく頑張ったって……何もできなかったじゃないか。

ネル

いいえ、教主様。

ネル

教主様にできることは、全部やってみたじゃありませんか。

ネル

それで十分です。私たちが教主様に、無限に何でもお願いできるわけではないのですから。

ネル

私たちにも、教主様にも……受け入れられる限界というものはあるはずです。

ジョアン

その通りです。全知全能の世界樹でさえ、できないことがあり、拙く処理したこともあったのですから……

ジョアン

教主様であれ、私たちであれ、手の届かない領域のこともあるのでございます。

ジョアン

あまりご心配なさいませぬよう。教主様は最善を尽くされました。

ネル

ですが教主様。今回の件は、本当に危険なところでした。

ネル

ピオラ司祭様の夢の中に閉じ込められて、永遠にそこにいることになったら、どうするおつもりだったんですか？

ネル

いつも夢を覗き見しているエスピーさんも、司祭たちの夢は危険だとおっしゃっていたことがあるのに……

ネル

今後もし、またこういうことを試される時は、私かシスター・ジョアンに必ず相談してからにしてくださいね？

教主

う、うん。分かった。今回は私も勘違いしたままやってしまったことだから……ちゃんと状況を把握していたら、君たちに相談していたよ。

ネル

うん、そうですね。教主様なら、きっとそうなさったはずです。

ネル

ひとまず、それでは……

ネル

いつもの通りの教団に戻る時間ですね。

ネル

つらい出来事でしたが、今すぐ解決できないのなら……いつも通りに生きていくしかありませんから。

教主

うん、そうだね。

ネル

教主様も戻ってこられましたし……シスター・スキアもいらっしゃいますから……

ネル

教団業務も、少しは余裕を持って処理できそうですね？

ジョアン

司祭長！ いきなり仕事をさせることから考えているのではないか?!

びくっ。

スキア

……！

ジョアン

あ、いえ、スキア司祭長様のことでなく……ネル司祭長へ言った言葉です。

教主

確かに、スキアも昔は司祭長だったから……少し紛らわしいね。じゃあ、これからどうなるんだ？ スキアが戻ってきたなら、司祭長の役職を譲るべきなのかな？

ネル

あ……そ、それは……！ 本当にそうしてもいいんですか?!

ジョアン

それはならん、司祭長！ 自分の役職に責任を持つのだ！

ネル

え、ええ、どうしてですか!!

ジョアン

スキア姉様がいくら初代司祭長だったとはいえ、今の状況でいきなり役職を任せるなど、話にならない。

ジョアン

慣れていただく時間も必要だし、現在の教団と王国の状況を正しく知らない方へそれを譲るなど、道理に合わぬこと。

ジョアン

司祭長の役職は、ネル、君が続けて務めるのが最も効率的で自然なのだ！

ネル

はあああっ！

ジョアン

ですから、スキア司祭長様——いえ、シスター・スキア。これからは司祭長ではなく、教団の一員である司祭として、一生懸命学びながら適応していく……

教主

末っ子司祭……ってことかな？ 一番古い司祭が……末っ子……

スキア

……… そ、そういうことになるのか？

ジョアン

ご安心ください！ このジョアンが、そしてネル司祭長が！ シスター・スキアを誠心誠意お導きいたします！

教主

うん、そ、そうだね。まあ、そうしてあげて。

スキア

……… 本当に大丈夫なのか……？ 少し心配だな。何やら順番がねじれている気がする……

ネル

それではシスター・スキア！ 基本業務から一度学んでみましょうか？

一方、教団の地下では……

ヤドリギ

スキアという子は、問題を起こす性格ではなさそうに見えたけど。ネルとジョアンがしっかり教えてあげれば、大きな問題はないよね？ 教団に働き手が増えれば、教主も喜ぶだろうし……

ヤドリギ

ブルミ、聞いてるよね？ 安心して、楽にこのまま眠っていて。

ヤドリギ

教団の未来は明るそうだから！

カアアッ。

ヤドリギ

う、ん？ ひいっ!! 何？ ど、どちら様？

ビオラ

う……うう……

ビオラ

ここは、どこ……？

ヤドリギ

うわあっ！ 古代司祭だ！ 司祭がまた一人起きたじゃない?!

ビオラ

ううう……あなたは……世界樹……なんてこと……

ばたり。

ヤドリギ

な、何？ また寝るの？

つん、つん。

ヤドリギ

寝言？ 夢遊病みたいなもの？

ヤドリギ

こういう場合は……また初めてだね～？